

# タブレット端末を活用した 学びのストーリー型ポートフォリオに関する研究

## Study about the Story type portfolio of the learning for which a tablet terminal was utilized

奈良崎雄郁、鷹岡亮、若杉祥太、嶋本雅宏、加藤直樹

Takafumi NARAZAKI\*1, Ryo TAKAOKA\*2, Shota WAKASUGI\*3, Masahiro SHIMAMOTO\*4, Naoki KATO\*5

山口大学教育学部\*1山口大学\*2山口大学大学院東アジア研究科\*3誠英高等学校\*4岐阜大学\*5

Faculty of Education, Yamaguchi University\*1, Yamaguchi University\*2,

Yamaguchi University graduate school East Asia postgraduate course\*3, Seiei high school\*4,

Gifu University\*5

Email:s022nf@yamaguchi-u.ac.jp

**あらまし**：本研究では、学習者が多様な方法で学習のふりかえりを行うことができる「学びのストーリー型ポートフォリオ」を提案することを目的としている。大学生に対して行った実践を元に教育場面に導入する際の教授者が行っておくべき手立て等を中心に述べていく。

**キーワード**：ふりかえり、話す/聞く、学びのストーリー、学ビデオ

### 1. はじめに

ふりかえりという学習行為は、学習内容の定着、次の学習への動機付けなど様々な意義があり非常に重要である。現状は、「書く」という行為がふりかえりの主になっているが、学習者にとっては「話す」方が「書く」よりも認知的負荷は低いとも考えられる。近年、学習者にとって動画や映像を撮影することが身近なものになり、モバイル端末のシームレスな接続性や直接操作性の向上、さらにそれらを活用するアプリケーションの整備も進んでいる。このような背景を鑑み、本研究では、文字、音声、写真や動画を利用した「学びのストーリー型ポートフォリオ」の特徴やその意義を検討し、効果的な活用方法について検討する。

### 2. 学びのストーリー型ポートフォリオの

### 概要

本研究では、学習者が自らの観点や教師から与えられた観点に基づき、自己の学びを構成した学習の軌跡を「学びのストーリー」と呼ぶ。そして、学習者が単位時間あたりの「学びのストーリー」を創りそれをアウトプットしたものを「学びのストーリーノート」と呼ぶ(図1参照)。それらを継続的に作成し、蓄積したものを「学びのストーリー型ポートフォリオ」と定義する。今回の実践では、iPad とロイロノート・スクールを使用した。

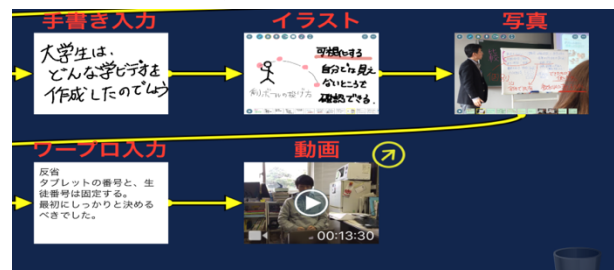


図1：「学びのストーリーノート」事例

### 3. 学びのストーリー型ポートフォリオ作成の意義

「学びのストーリー型ポートフォリオ」は、次の5つの意義を持つ。

- (1) 学習者の授業への参加意識を向上させる
- (2) ポートフォリオを作りながら自らの学びをふりかえることができる
- (3) 「書く/読む」中心ではなく、「話す/聞く」中心のふりかえりができる
- (4) 「学びのストーリー型ポートフォリオ」内の学びを連続的にふりかえることができる
- (5) 教師の学習評価に役立てることができる

### 4. 「学びのストーリー型ポートフォリオ」の位置付け

「学びのストーリー型ポートフォリオ」を作成させる際に発達段階や授業形態を考慮すれば、最初から「学びのストーリー型ポートフォリオ」を導入することが難しい場合も考えられ、その足掛かりとして、教師に与えられた観点に対して授業の中で学習者が学んだことをビデオに記録する「学ビデオ」を導入することも考えられる。学習者が「学ビデオ」を作成するところから始まり、成長に応じて「学びのストーリー型ポートフォリオ」をつくることができるようになることは、新しいふりかえりの育成モデルになると考えられる。

### 5. 授業形態別作成方法

大学の授業は、その特徴から①講義型②発表型③自主学習型に分類することができる。本研究では学習者が「学びのストーリー型ポートフォリオ」を作成しやすくなるような方法をそれぞれの授業形態別に検討した。

講義型では配布資料を活用した書き込み式、授業場面をふりかえりの際に想起して再現する再

現式、予習段階でストーリーノートにわからなかったことなどを明記しておいてそれを元に授業に臨む予習式、教授者の言動を中心にストーリーノートを作成する観察式の4つの方法を採用することができる。

発表型においては、学習者自身の発表の様子をふりかえることを中心とした客観的評価式、他者の発表のコメントを作成する観点別コメント式、他者の発表を聞きながら記録したメモをもとにふりかえりを行う音声上乘せ式の3つの方法で作成することができる。

自主学習型においては、学習者が自主学習の計画をストーリーノートに作成する行動計画式、一時間でなにを学んだのかを簡潔に記録する成果報告式、自主学習から生じた疑問等を表出するためのボイスレコーダー式の3つの方法が適していると考えられる。

### 6. おわりに

本研究では「学びのストーリー型ポートフォリオ」を作成することのよさや、導入するために事前に指導すること、身につけさせておくべきことが検討できた。今後は実際の学校現場に導入した際に生じる課題等を整理して、「学びのストーリー型ポートフォリオ」のシステムについて精査していきたい。